

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 8 年 5 月 10 日
② 法人・団体名	一般社団法人 COCORO ごはん		
③ 団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	東京都北区滝野川		
③ 責任者氏名	我妻澄江	(役職名等)	代表理事
④ 担当者氏名	引間亜希子	(役職名等)	事務局

【奨学活動の概要】					
⑤ 助成交付決定番号	R07-004	⑦助成金額	150 万円	⑧申請カテゴリー	DS
⑨ 奨学活動名	COCORO 学習支援事業				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	〒114-0023 東京都北区滝野川 3-24-1 (我妻気付)				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

▶中高生居場所事業(旧 COCORO 学習室/自習室)(90 回/年)

対象と内容:地域の中/高校生を対象に、学習支援(毎週木曜日/定期試験前の学習/受験対策)と居場所提供。
・大学生・社会人講師が、必要な生徒にはぼマンツーマン体制で学習を支援(夜食提供)

▶長期休業居場所事業 (37 回/年)

対象と内容:地域の小/中/高校生対象に年 3 回の長期休業中の学習支援/居場所提供
・学習時間を定め、宿題/定期試験に向けて学習を支援(昼食提供)

▶mini 子ども食堂(第 1,3,5 水曜日/見守り発生時 46 回/年)

対象と内容:日常的にサポートが必要な家庭対象、登録制
・子ども食堂を開催しない第 1,3,5 水曜日開催、夕食を提供し、学習支援。

▶プログラミング教室 (プログラミング教室 22 回 第 1.3 水曜開催)

対象と内容:学習支援教室に登録している小・中学生。高校生がサポートに入った。
・学校から貸与のタブレットを使い、この先の IT 社会に通るスキルを身につけることを目指した。

⑫奨学活動の定量的把握 (注:統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3-2 等でご報告願います。)

支援対象	延べ人数 (A:人)	平均時間 (B:時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	1260	3	3780	210 回×登録中学生 6 名、生活体験含
高校生等	1072	3	3216	210 回×登録高校生 5 名、プログラミング含
大学生等	420	3	1260	210 回×定例活動学生講師含む(各回 1~2 名)
学習支援員等	1260	2	2520	講師(学習支援大学生含む)各回平均 6 名
その他	1680	4	6720	スタッフ、ボランティア含む各回平均 8 名
合 計			合 計	17181

⑬その他の定量的な数値 (任意) [滝野川子ども食堂,東京都北区,COCORO ごはん](#)

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：COCORO 学習支援事業

法人・団体名：一般社団法人 COCORO ごはん

作成者 氏名：引間亜希子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について **2025 年は事業を整理し、一部事業名称を変更**

【目的】進学希望の子ども達が、他の外的要因に左右されず、子ども自身が望む進路に向かう事

【内容】学ぶ機会を提供し、子ども達の個々の相談に応じる

食の提供により、子ども達の心身の安定と自立に向けた成長をサポートする

【実施場所】馬場自治会館/馬場ふれあい館/HIROKO ホーム

【支援対象者】当団体が家庭/個人にサポートが必要と判断した中/高校生

2. 実施した奨学活動の詳細

≪助成活動日≫COCORO ごはん 2025 年：中高生対象活動 210 回

① 活動内容の詳細/参加人数

▶**中高生居場所事業**(旧 COCORO 学習室/自習室)(90 回/年 延べ 664 人)

【学習面】(学生・社会人講師による指導/自習含む)

・定例(毎週木曜日)一基幹科目である英語・数学をメインに、定期的を開催することで学習習慣と知識の定着を図った

・定期試験前学習(4 回/年)ーテスト実施科目(中間 5 教科/期末 9 教科)に合わせ講師を配置し、学習支援を行った。

・受験対策一都立過去問を中心に集中学習/自習場所提供

【環境面】

・食の提供一家庭によっては十分な食事提供がされていない時もあり、食事の提供を行った。

・避難場所一家庭で居場所がない子どもの一時避難所として開放。

気持ちを整えてから帰宅を促すシェルター機能を果たした。

▶**長期休業居場所事業** (37 回/年 夏・冬・春の長期休業 延べ 645 人)

【学習面】

・学習時間を定め、宿題/定期試験に向けて学習を支援

【環境面】

・食の提供一ひとり親世帯を中心に、長期休業中に昼食を用意しておくことが難しい家庭も多い。衛生面でも安心できる昼食(軽食含む)を提供した。

・自立に向けたサポートー簡単な調理/片付けなど普段料理をしない家庭や、家事をしたことのない子どもたちが、自身でやることを増やす機会を作り、自立に向けたサポートを行った。

・体験機会提供ー長期休業中、体験格差を埋めるべく、季節に応じた体験の機会を提供した。

夏：品川水族館や、ボーリング、カラオケ、中央公園プレーパークにお出かけ。品川水族館に行った子は「こんなに長い時間に電車に 乗ったのは初めて」との感想。プレーパークでは、存分に水遊びをし、火で色々なものを焼き、木工で自由に釘を打ち、0 歳～80 歳代と様々な世代と交流。

冬：恒例の書初めレッスンやかたる遊び。

春：小学生から高校生まで一緒になって円陣青空バレーボールや鬼ごっこ、バドミントンなど外あそびを満喫。室内では「人生ゲーム」や「人狼ゲーム」が人気。

受験を終えた中学 3 年生も、おしゃべりしたりお昼寝したり、新生活に向けてエネルギーを蓄えた様子。



やっぱり、夏はスイカ！



学習タイム やる時はやる??



自治会館前で水遊び



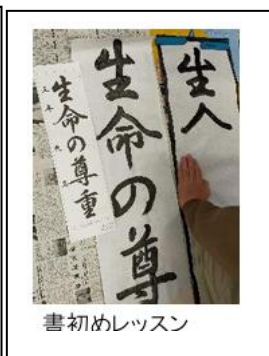
盛り盛りセルフデザート



ご寄付の夏野菜のランチ



人気のカルタ遊び



書初めレッスン

▶mini 子ども食堂(第 1,3,5 水曜日/見守り発生時 46 回/年 延べ 569 人)

【学習面】

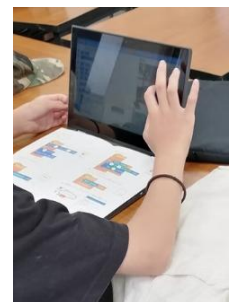
- ・宿題を含め、講師を配置し学習支援。

【環境面】

- ・日常的にサポートが必要な家庭対象に登録制で開催。
- ・定期的に子ども達と接することで、子ども達や家庭の環境変化を早期にキャッチし、問題発生時は早期に解決に向けての ACTION に繋げた。
- ・食の提供

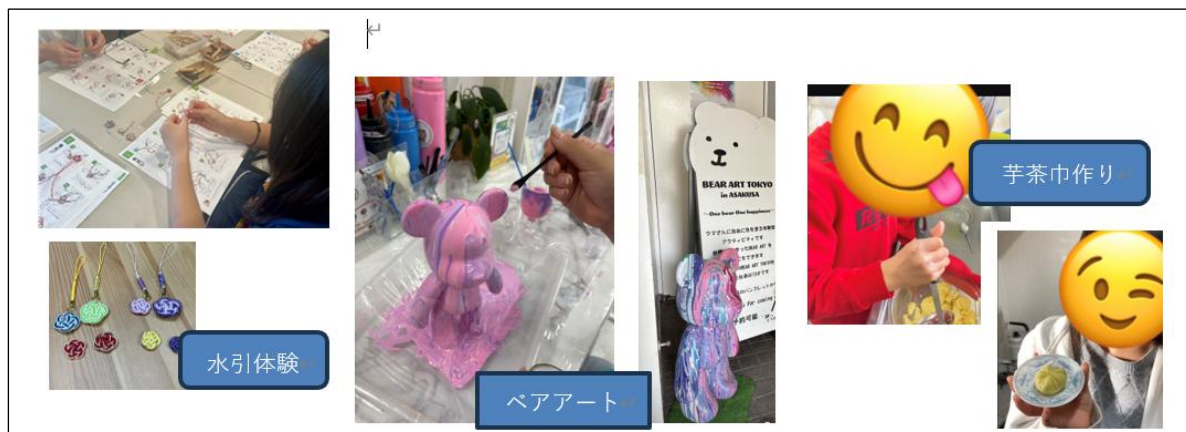
▶プログラミング教室 (第 1.3 水曜開催 計 22 回 延べ 154 人 サポート高校生 21 人)

- ・2025 年度から当団体での主催事業(国の補助金終了のため)
- ・地域在住の「NPO 法人プログラミング教育研究所」の会員に有償で講師を依頼し、無料で開催を継続。
- ・子ども食堂・学習支援教室に登録している小学 2 年から 6 年生が参加。
- ・保育専攻の高校生がサポートに入った(高校生講師代を助成いただく)。
- ・この先の IT 社会に通るスキルを身につけることを目指した。



▶生活体験(不定期開催 19 回 延べ 45 人)

- ・登録している中/高校生が自由に過ごす場の提供
- ・外部機関との連携によるイベント参加



水引体験

ベアアート

芋茶巾作り

◆2025年度 一般社団法人COCOROごはん 事業回数と人数

子ども食堂 (学習付き)	説明	回数	参加者数 (高校生以下)	会員	ボランティア	講師
滝野川子ども食堂	第2.4水曜 事前予約	18	698	150	73	56
子ども食堂mini	第1.3.5水曜、他適宜 登録制	46	569	157	42	89
	見守りが必要な家庭に適宜					
中高生居場所事業	毎木曜日や定期考査前、受験対策時に実施	90	664	357	2	195
長期休業居場所事業	春休み、夏休み、冬休みに実施	37	645	159	55	90
個別放課後学習支援	R8年1-3月 対象 小学5年生1名	23	6	23	0	23
プログラミング教室	第1、第3水曜日に開室	22	154	22	21	22
生活体験	祭礼/プレーパーク/ベアアート/さおり織	19	45	11	2	2
計		255	2,781	879	195	477

学習支援教室	説明	回数	参加者数(小学生)	会員	ボランティア	講師
滝野川学習支援教室	毎木曜、小学生対象	47	431	子ども食堂に含む		

上記外に5/3に総会、11/23に周年懇談会を実施。

② 【周知方法】

- ・助成対象事業に関しては非公開なため、周知せず。
- ・近隣の学校や児童相談所からの依頼が、民生児童委員や学校評議員である会員にあり連携している。
- ・運営する子ども食堂で、スタッフが必要と思われる子どもに声をかけ参加を促している。
- ・公開事業である子ども食堂（奨学非対称事業）は Facebook などで開催の周知をしている。

【協力いただいた関係者】

- ・子ども達の所属する学校関係者
- ・北区社会福祉協議会
- ・北区子ども未来課
- ・NPO法人プログラミング教育研究所
- ・馬場自治会
- ・北区 NPO・ボランティアぷらざ
- ・認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
- ・東洋大学川原ゼミ
- ・大正大学 BBS
- ・北区で子どもの遊ぶ場所をつくる会(北区プレーパーク)
- ・地域の学生ボランティア他

③ 地域やボランティア活動との連携

▶**学校との連携**：地域の小中学校とは常に連携し、学校で問題行動のある子どもや、児童相談所が絡む家庭など学校から依頼を受けサポートをした。また、当団体の活動状況を学校に伝え、一緒に解決策を探り、双方向での連携を図った。

▶**子ども家庭支援センターとの連携**：問題のある家庭を情報共有し、継続してフォローしている。保護されてしまうと学区の学校へ通うことが出来なくなる為、できるだけ環境を変えず安心して生活できるよう、また事が大きくならないように問題の早期発見・早期解決に向け活動した。

▶**ボランティアの受け入れ**：地域の大学やボランティアぷらざと連携し、実習学生やボランティア希望の学生

を定期的に受け入れ、子ども達の良き遊び相手として活躍して頂いていた。

▶**大学との連携**：大正大学 BBS 会からは毎年子ども達への季節のイベント開催(クリスマス会)

東洋大学福祉社会デザイン学部川原ゼミの学生達の当団体へのボランティア参加

子ども達の大学イベントへの参加(東洋大学わんわん読み聞かせイベント/大正大学文化祭等)

大学との交流の幅が広がり、子ども達の体験価値を高める場を提供してた。

▶**学校での外部講師活動（我妻）の拡大**

都立赤羽北桜高校：6月と11月に「子ども食堂」などの子ども支援の活動について説明。その後の「子ども食堂」に、生徒の体験を受け入れた。

東洋大：5月一社会福祉学科川原ゼミの3・4年生を対象に外部講師を務め、2月一社会福祉学科の報告会に出席し、フィールドワークに来ていた学生の発表についてコメントをした。

全国校区・小地域サミット分科会@大正大学一登壇。都内他の自治体や他県の社協職員・市民活動者と交流をした。

④ **学習支援員について**

○**学生講師**

- ・登録している大学生講師の多くが、小学生より関わっていたメンバー。
- ・地域で子育てするサイクルを回すことも目指している。
- ・過去の学生講師は、教員や社会福祉士、精神保健福祉士、心理士として活躍している。
- ・問題を抱えた子が学習する意欲を持つには、学習の指導だけでなく、一人ひとりの状況に合わせて寄り添うことが必要とされ、学生たちはそんな子ども達に忍耐強く寄り添い、子ども達から信頼されている。近い将来のロールモデルとして、欠かせない存在。

○**社会人講師**

- ・元学生講師や元教員、元COCORO学習室に通っていた子どもの保護者を中心に、当団体の活動に賛同した地域住民からのサポートを得ている。

○**講師間交流**

- ・1年に1回、運営スタッフ/講師で集まり、子どもの情報共有と共に、専門家を招き勉強会開催。
- ・各定期テスト対策のCOCORO自習室毎に集まり、勉強計画と振り返りを行っている

⑤ **購入した機材・物品の写真（助成表示用シールの貼付）**

2025年度助成金は、主に講師代/会場費に適用

備品：プロジェクター(中高生居場所事業にて活用)



3. **本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等**

【**成果**】

- ・高校受験 サポート3名の進路状況—**第一希望合格**

個々に違う課題あり、それぞれのレベル/やる気/環境に合わせサポート

- ・うち一名、ポテンシャルは高いがモチベーションが上がらず。

都立高校過去問を講師とともに集中学習し知識の定着を図った。

スピーキングテスト(ESAT-J)では模擬テストとスピーキングの

ポイントを学習し「A評価」。

【**課題**】

- ・**早期の基礎学力定着の必要性**

漢字/計算は小学校からの蓄積なので、中学1年での段階で躓くとリカバリーが難しい。

また英語も本格的に始まり、小学生からの早期の基礎学力の定着が求められる。



・安定的な食・学習サポート提供への人材確保

年々事業拡大とともに開催回数も増え、スタッフの負担も増えている。

学生の就職に伴い、新規講師の人材確保は急務。やる気のない子どもに寄り添い、根気強く向き合える人材は少ない。また講師陣の負担軽減のための支えるスタッフの学びも必要。

・事業規模拡大に伴うステップアップ

子ども達の成長に合わせ、更なるステージでのサポートが当団体へ求められ、この先の事業範囲の拡大が見込まれる。今後も、事業に合わせたスタッフの更なるスキルアップを目指したい。

・個別支援（ファミリープログラムを含む）

特別活動/個別の家庭への生活支援や北児童相談所・子ども家庭支援センターといった専門機関との連携、近隣小中学校との情報共有などを行った。また、滝野川学習支援教室やCOCORO 学習室登録の保護者との面談を実施し、子ども達の家庭環境等について把握することができた。

登録している小学生きょうだいが、児童相談所に再度一時保護された。専門機関に繋がっても、家庭の状況を変えることは難しいと痛感している。

・生活体験活動

HIROKO ホームの活用の一環として活動を開始したが、実際はアート等の体験 活動や長期休業時のプレーパーク参加など、屋外での活動が多かった。子どもたちのニーズは多様であり、それに沿った活動 のため、柔軟な対応が必要。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

▶ここ数年の事業拡大には貴団体の助成金の存在が大きい。「食」をツールに、家から出かけ、サポートを行うには軍資金も必要。安心して子どもを受け入れる為にも安定した財源の確保はありがたい。学力 UP のためには継続的なサポートが必要だが、そこにかかるマンパワーは当団体への寄付などだけでは補えない。人材確保の面でも、活動に賛同し、支援して頂ける事は大変ありがたい。

▶長年の環境の中で、親を変えることはできない。いかに子どもを自立に向けサポートしていくかが課題であり急務。外に出ることで客観的に自身を振り返ることができる。そのためにも学習だけでなく生活体験もより必要になってくる。

▶今年度当団体は活動 10 周年を迎える。新たな課題もありつつ、継続して家庭と長期的につながり子ども達の成長を見守ることの重要性を改めて感じている。各家庭との面談や関係各所との連携、視察などを含めると運営にかかわる件数も増加している。あらためて当団体の存在意義を感じる 1 年となる。

◆2025年度 一般社団法人COCOROごはん 特別活動回数

区分	回数	概要
相談・懇談	70	児童相談所、子ども家庭支援センター、警察署、近隣小中学校などに相談、情報共有。保護者からの相談対応等。
面談	8	滝野川学習支援教室やCOCORO学習室に登録する保護者との面談（1回につき複数件数対応もあり）。
生活支援	107	ファミリープログラム家庭の自宅清掃や洗濯、習い事引率や週末のランチ提供など。
イベント参加	17	東洋大赤羽台キャンパスにて「わんわん読書タイム」等の大学主催のイベントへの参加、地元自治会イベント参加など。
視察	8	寄付者の訪問対応、HIROKOホーム内覧会など。
ほか	14	東洋大学や赤羽北桜高校での外部講師（我妻）、北区子ども食堂NWの会議参加など。
総計	224	





高校3年生が就職&一人暮らし開始。当時担当の元講師達でお祝いました



中学3年生の受験が終わり、祝う会を開催。リクエストのホールケーキでお祝い！！



地元の大正大学 BSS メンバーが毎年クリスマス会を開催

子ども達がデコレートするとこんな感じになります

初体験！！

中高生がクリスマス会の開催を希望。チキン丸ごとをさばく体験をしました

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

一般社団法人 COCORO ごはんは、月2回の子ども食堂に加え、小学生へのマンツーマンの学習支援、中高生を対象とした学習支援・居場所事業、見守りが必要な家庭向けのミニ子ども食堂、長期休暇中の昼食・遊び場の提供、生活体験支援など、子どものニーズに応じた多面的な支援を年間を通じて展開している。2025年度の活動回数は延べ302回であり、食事提供は延べ2,627人、うち学習支援に関連した食事提供は1,884人、また個別の家庭支援・専門機関との連携は延べ224回に達しており、量的規模および継続性の両面においても高く評価できる。

本団体の活動は、家庭・学校・行政機関のいずれにも代替されない、子どもにとっての「第三の居場所」として機能している。そこでは、学習習慣の定着や授業の補完にとどまらず、挨拶や他者との関わり方、生活習慣や社会性の形成に至るまで、丁寧な関わりが日常的に提供されている。こうした取組みは、子どもの孤立や学校からの離脱を防ぎ、進学等の進路形成にも具体的な成果をもたらしている。（2025年度3名が志望校に進学）

特筆すべきは、支援を受けて育った子どもたちが、高校生・大学生になると講師やアシスタントとして活動に参画するほか、学習ボランティア大学生たちと運動クラブを結成するなどの点である。安心して挑戦や試行錯誤ができる環境の中での若者の成長の過程は、子ども食堂の子どもたちにとってロールモデルであり、また若者にとっては自己肯定感や役割意識の醸成など重要な意義を有する。

ネグレクトや虐待のリスクが高い子どもについては、児童相談所、学校、子ども家庭支援センター等と連携し、早期発見と継続的見守りを含む支援体制を構築している。また保護者との顔の見える関係の構築に力を入れており、親の Parenting 支援も適宜行っている。

子どもの権利条約の理念を基盤に、食・学習・居場所・見守りを結びつけた包括的支援を展開している点において、本団体は地域における先駆的实践として高く評価できる。今後「児童育成支援拠点事業」を担いうる十分な実績や環境・ネットワークを備えており、地域での子どもの居場所支援のモデルとなることが期待される。

（東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科准教授 川原恵子）